

令和5年度前期昇段審査会の結果概要について

1 段位別受審者及び合格者数

	初段	弐段	参段	計
受審者	35	6	3	44
合格者	23	3	3	29

2 講評要旨

(1) 初段受審者あて（栗原 和包審査員）

- 基本動作の突きは、高さが正確ではなかった。中段はみぞおち、上段は人中（鼻の下）を狙い、正確に突くこと。
- 腰の押し出しができていないので、相手を一撃で倒すようなパワーが出ていなかった。
- ドカドカと足音がしていた。足を上下させていると技のスピードが遅くなる。頑張る稽古に励んでほしい。

(2) 弐段及び参段受審者あて（為我井 和彦審査員）

- 移動は、すり足が基本であり、大きな足音は出さないこと。
- 力が入っていた点は良かったが、力を抜くところも練習すること。
- 組手での攻撃は良かったが、受けが不十分であった。形の第一拳動が受けから始まるように、受けは攻撃に移る準備なので、受けの稽古量を増やすこと。

3 段位別受審者の形の選択状況

(1) 初段

抜塞大	観空大	燕飛	慈恩	計
26	1	—	8	35
74%	9%	—	73%	100%

(2) 弐段

選定形

抜塞大	燕飛	計
2	4	6
33%	67%	100%

得意形

慈恩	観空大	五十四歩小	計
4	1	1	6
67%	17%	17%	100%

(3) 参段

選定形

抜塞大	燕飛	計
—	3	3
—	100%	100%

得意形

慈恩	観空大	計
2	1	3
67%	33%	100%